



『東北圏だより』

佐渡金銀山の世界遺産登録に向けた取組

佐渡島には、相川金銀山に代表される金銀鉱山が多数存在しており、その歴史は16世紀半ばから平成元年の休山までの400年以上になります。その時々金の生産技術の変遷の痕跡である建造物や遺跡、それを支えた人々の営みを示す集落跡・町並みなどが極めて良好に残り、世界的にも類例のない鉱山と高く評価されています。

この貴重な郷土の宝を世界文化遺産に登録し後世に伝えていくため、新潟県と佐渡市は平成18年度から協同して様々な事業に取り組んできました。平成22年11月に

は、推薦の前提条件となる世界遺産暫定一覧表に記載され、正式に世界遺産候補となりました。その後、佐渡金銀山の世界的価値の調査研究や保存管理計画の検討などを進めてきましたが、現在は早期の登録実現を目指し、推薦書案の作成と構成資産の国文化財指定に向けた作業が大詰めを迎えています。

一方、登録に向けて島民・県民の気運醸成を図るため、パンフレット・情報紙の発行、講演会やシンポジウム、学校への出前授業など様々な普及啓発活動を継続的に行っています。また、国際シンポジウムやユネスコ世界遺産委員会などの会議への参加を通じて、佐渡金銀山の価値を国内外に情報発信することにも努めています。

このほか、登録実現に向け官と民の力を結集して運動を盛り上げるため、県内の各種団体が参加して昨年2月に「佐渡金銀山世界遺産登録推進県民会議」が発足しました。会員数は1,100団体を超え、佐渡の支援団体と共に現地の草刈りや店頭での募金活動、講演会への参加など様々な活動を実践しています。近年ユネスコは登録審査にあたって地域の理解と支援体制を重視しており、これらの活動が登録後も見据えた官民一体の保存管理・活用体制につながるものと期待されています。

本年3月末には推薦書案を国へ提出する予定であり、登録実現も遠くないと感じていますが、将来にわたる遺産の保全や増加する来訪者の受入体制など、取り組むべき課題が存在するのも事実です。現在、想定される課題と対応方針などを整理したアクションプランを策定中で、効果的な実施体制を構築して対応することとしています。

世界遺産登録は目的ではなくあくまで通過点です。佐渡島民をはじめ県民一人一人が、佐渡金銀山の素晴らしさを正しく理解し後世に守り伝えていくことが大切であり、それに向けて今後も取組を進めていきます。

新潟県



▲道遊の割戸（江戸時代の露頭掘跡）

台湾において、『日本東北六県感謝祭』を開催しました

東北運輸局

東北運輸局、(公社)日本観光振興協会東北支部、東北観光推進機構、東北各県(青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県)等で構成する東北六県感謝祭実行委員会(以下「実行委員会」)は、平成26年12月19日(金)~22日(月)に、未だ東北への旅行者が震災前水準まで戻っていない台湾において、「東北六県感謝祭」を開催致しました。

本イベントは、東日本大震災からの復旧・復興に際して、多くのご支援をいただいた台湾において、台湾への感謝を伝え、東北の元気を発信するとともに東北が一体となって東北への旅行につながる各種プロモーションを行い、台湾から東北への旅行者の拡大を図ることを目的として実施したものです。

東北から150名もの関係者が参加して開催した本イベントには、開場時間前から長蛇の列を作ってお待ち頂いたほどの盛況ぶりです。4日間の開催で延べ4万人以上の来場者を数えました。

【開催概要】

- イベント名称:「日本東北六県感謝祭」
- 開催日時:平成26年12月19日(金)~12月22日(月)
- 開催場所:台湾花博会場 EXPO DOME (台北市)
- 主催:日本東北六県感謝祭実行委員会
- 内容:
 - ・東北の伝統芸能等のパフォーマンス
 - ・東北観光親善大使「Rake」によるライブ演奏
 - ・東北の名産品の試飲試食
 - ・東北の文化体験
 - ・東北各地の観光魅力を発信するブース出展
 - ・台湾の旅行会社による東北へのツアー商品の説明 等

○主な参加者

- 高橋宏明 日本東北六県感謝祭実行委員会会長(東北観光推進機構会長)
- 永松健次 国土交通省東北運輸局長
- 守本憲弘 経済産業省東北経済産業局長

イベントの冒頭、東北と台湾の関係者によるオープニングセレモニーが開催され、実行委員会を代表して、高橋宏明会長(東北観光推進機構会長)が挨拶を行い、東日本大震災の復旧・復興に対する台湾からの多大なる支援に感謝し、台湾の皆様に対する感謝状の贈呈を行いました。また、永松健次東北運輸局長より、イベントに出展等の協力を頂いた台湾の旅行会社、航空会社に対してお礼状の贈呈を行いました。

そして、東北観光親善大使であり、東北の沿岸被災地域での無料ライブの連続開催など、東北の観光振興を積極的に行っている仙台出身のアーティスト「Rake」による開会宣言により、イベントがスタートしました。

開催期間中、さんさ踊りやなまはげ太鼓といった伝統芸能のパフォーマンス、こけし絵付け、ねぶたハネトなどの体験、60種類以上の東北産日本酒の試飲など、東北六県の魅力を実際に見たり、聞いたり、触れることができ、来場者には東北の様々な魅力を堪能して頂きました。さらに、昨年台湾で大ヒットし、先月から日本でも上映が始まった映画「KANO」の主題歌を担当した「Rake」による映画主題歌やヒットソングを歌うミニライブも行われ、台湾の方々に東北を一層身近に感じて頂くことが出来ました。



日本東北六県感謝祭 PR ポスター



▲さんさ踊り



▲東北観光親善大使「Rake」

来場者には、イベント内の各ブース等で楽しんで頂くのみならず、会場に設置されていた東北からの感謝ボードに沢山の励ましや今後の期待のメッセージを書き寄せて頂くなど、多くの台湾の一般市民の方々に東北の現状と観光魅力を知って頂く良い機会となりました。

東北運輸局としては、このイベントを一過性のものに終わらせることなく、引き続き関係者と連携して、台湾における東北一体となった観光魅力の発信を行い、台湾から東北への旅行者の一刻も早い震災前水準への回復と更なる拡大を図って参りたいと考えております。

なお、感謝ボードは台湾より仙台に持ち帰っており、2月11日から3月11日まで仙台駅にて展示する予定となっておりますので、期間中、仙台にお立ち寄りの際には、是非ご覧ください。



▲多くのメッセージが寄せられた感謝ボード

編集後記

先月末から今月にかけて寒い日が続き、寒さに強い私ではありますが、春が待ち遠しい今日この頃です。

東北圏広域地方計画は、構成機関の皆様のご協力により、着々と改定に向けた作業が進められておるところです。今後も、東北圏広域地方計画の改定に向けた取組の更なる推進を図るため、構成機関の皆様からの情報提供やご協力を引き続きお願いいたします。

『東北圏だより』に掲載する広域地方計画に関連する情報をお寄せ下さい。また、『東北圏だより』へのご質問、ご意見、ご要望等についても結構です。お気軽に次のアドレスまでメールでお寄せ下さい。メールアドレス：kou-suishin2@thr.mlit.go.jp